

令和5年8月23日

安芸高田市議会議長
大 下 正 幸 様

総務文教常任委員会委員長
芦 田 宏 治

総務文教常任委員会 所管事務調査報告書

本委員会の所管事務について調査した結果を、次のように報告いたします。

記

1 調査事件名 安芸高田市都市計画マスタープラン 立地適正化計画

2 調査の目的

2023年5月に策定された当該計画に関し、質疑を通じ不明確な部分を解消することで、住民からの問い合わせに答えられるようにするため。

3 調査の方法

策定された当該計画を精読し、疑問点を整理した上で、詳しい説明を求める部分や不明点を執行部に通達。説明を受けたのち、質疑により深く追及した。

4 調査結果

調査項目① 計画の概要

- ・人口減少が急速に進行する中で本市全体として持続可能なまちづくりを行うためには「コンパクトなまちづくり」により、拠点となる地域の人口密度を維持し「公共交通ネットワーク」でそれらを繋ぐ必要がある。これらを踏まえ、本市全体を対象にまちづくりの方向性を示す「安芸高田市都市計画マスタープラン」を策定し、吉田町の中心地を対象としてコンパクトなまちづくりの方針を定めた「安芸高田市立地適正化計画」を策定する。
- ・目指すべきまちの方向性を4つに整理
 - 1) コンパクトな都市の構築・・・居住や都市機能の集約、施設の適正配置
 - 2) 安全・安心な居住環境の確保・・・災害リスクの低い地域への居住誘導、インフラ整備。
 - 3) 活力の創出・・・地域ならではの産業の活性化や地域コミュニティの強化
 - 4) 交通アクセスの確保・・・誰もが目的地へアクセスしやすい環境の整備

調査項目② スケジュール

- ・目標年次は20年後(2042年度)、実施期間は10年間。公共交通網の再編や地域防災体制の充実は2~3年の短期、交通結節点の整備は5年の中期で設定。

調査項目③ 不明点について

- ・公共交通利用者数の目標値について。この計画は5年後くらいを目途に公共交通計画との整合性をはかりながら修正していく予定。
- ・「公共交通網の再編」は2023年3月に発表された「地域公共交通計画」と同一。
- ・「歩道空間の整備」の対象地域は市全域である、その中でも各町の中心拠点を中心に推進していく。
- ・居住誘導エリア内外にかかわらず空き家は増えると予測できる為、市全域で空き家の解体促進や活用を進める

総括：人口減少や防災等、色々な課題がある中で、今後のまちづくりをどう進めるのかという重要な計画。「コンパクトシティー」という言葉で、吉田町に全てが集約されると誤解している市民も多い。計画内の「地域別構想」などは市民に周知する必要がある。また、立地適正化計画において、居住誘導区域や都市機能誘導区域が設定された為、区域内外において各種届け出が必要になることも市民の理解を求めていく必要がある。